



**GOOD DESIGN AWARD
2025年度受賞**

日向市で取り組んでいる「木を活かしたまちづくり」は
2025年度グッドデザイン賞を受賞しました

だれでも楽しみながら杉を守り、まちを守ることができます

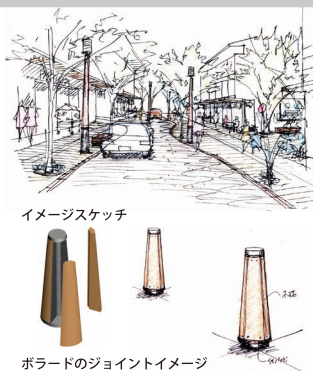


日向市が取り組んでいる「木を活かしたまちづくり」

日向市駅周辺整備に伴い日向市は「木を活かしたまちづくり」の方針を掲げ、2002年に行った木製ファニチャーワーキングにて開発した製品を順次まちなかに設置、その後10年経過した2011年に検証会を行い、杉材は表面をきれいにメンテナンスすることで継続して使っていただけることを確認しました。それ以降、木製ファニチャーのメンテナンスをイベント化して、市民と一緒に杉を磨いて使い続けています。

2002 木製ファニチャーワーキング

木を使ったファニチャーを製作するため、県、市、専門家、施工業者、メーカーからなる木材ワーキングを組織し、検討を進めた



2003 塩見橋 橋詰広場完成



2003 10街区完成



2006 日向市駅舎・東口駅前広場完成



2008 西口駅前広場完成



2011 10街区木材利用検証会

10年経過したファニチャーの表面に艶を掛け直した



2019 杉ベンチメンテナンスイベント



2023 杉ボラードメンテナンスイベント



2024 杉ボラードメンテナンスイベント



2025 杉ベンチメンテナンス



地場産杉材を用いたオリジナルストリートファニチャー

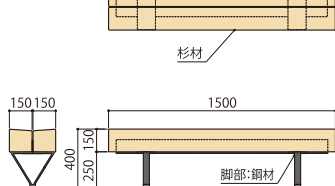
材料・製作はすべて宮崎県内で

杉材はすべて日向市周辺の耳川流域産材を使用、加工も日向市内業者、酸化亜鉛含浸処理を含めすべて宮崎県内で行っています。

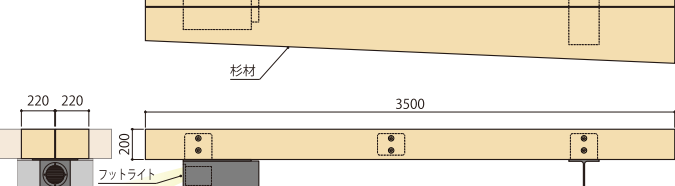
ベンチ

多少の劣化や傷で交換とならないよう杉材は大きな断面で使用し、空間に合わせて3タイプを展開しています。

■ベンチ (1.5mタイプ)



■ベンチ (3.5mタイプ)

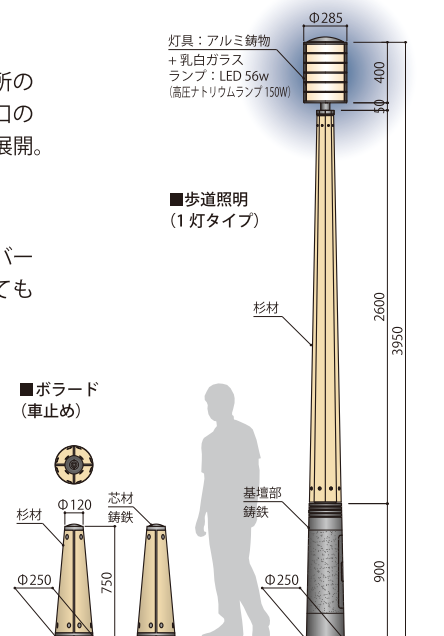


歩道照明

鋳鉄 + 鋼材の本体に2分割の杉材を取り付け、上下2箇所のボルトに加え、中央部には丸太や原木の移動等に使う鳶口の道具をヒントに固定しています。1灯タイプと2灯タイプを展開。

ボラード(車止め)

鋳鉄製の本体に4分割の杉材を取り付け、木口を本体でカバーしながら、雨水の侵入を防ぎます。万が一雨水が侵入しても速やかに排水のできる形状としています。



屋外で木材を使うということ

雨ざらしの屋外に木材をそのまま置いておくと腐り、シロアリによる被害が発生します。腐朽菌による分解やシロアリの被害を受けるとストリートファニチャーとしての機能が果たせません。そこで木材を使うためには、「防腐・防蟻処理」をする必要があります。そうすれば風雨で汚れた表面を削り落とすことで、きれいな状態の木材によみがえります。

日向市で使われているストリートファニチャーは「酸化亜鉛含浸処理」が施されています

〔酸化亜鉛含浸処理とは〕

酸化亜鉛含浸処理とは、木材を強化するために特定の薬液を注入し、内部で化学変化させることで、高い防腐・防蟻・寸法安定性能を付与する技術です。殺菌・殺虫効果のある毒性の高い薬液を使うのではなく、ハンドクリームやベビーパウダー等に使われる成分と同様なものを使用して安全安心を確保しています。

〔安全性と環境・美観配慮〕

毒性の高い成分や重金属を使用しないため、加工の際にできる木屑は畜産などの敷料にリユースされ、人や環境に優しい技術です。
耐久性: 薬液が木材の内部に深く浸透し、固化化するため、雨水による成分の溶脱(流れ出し)が少なく、長期間にわたって効果を持続します。
素材の美観維持: 着色しない無色の薬液を使用するため、木材本来の色合いを損なうことがありません。文化財など歴史的な木構造物に数多く使用されています。